

- 問1 「二条河原の落書」には、当時の京都で「綸旨（りんじ）」が乱発され、社会が混乱している様子が記されています。この「綸旨」とはどのようなものですか。その性質として正しい説明を選びなさい。（2021年 和歌山県公立入試 類似）
- 鎌倉幕府の執権が武士の土地裁判のために定めた法律
 - 室町幕府が借金を帳消しにするために出した法令
 - 後醍醐天皇が自らの意向を直接伝えるために出した命令書
 - 平氏が貴族の反乱を抑えるために出した軍事的な指令
- 問2 室町時代後半の京都では、応仁の乱によって荒廃した町の復興を、有力な商工業者たちが中心となって進めました。彼らについて述べた文として、自治の仕組みや文化的な背景を踏まえて正しいものを選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
- 町衆と呼ばれ、自治組織を結成して祇園祭などの伝統行事を支える文化の担い手ともなった。
 - 地侍と呼ばれ、農民をまとめて惣村をつくり、領主に対して年貢の減免を求める一揆を主導した。
 - 会合衆と呼ばれ、豪や土塁を築いて大名の侵入を防ぎ、鉄砲の普及に大きく貢献した。
 - 座と呼ばれ、貴族や寺社に税を納めることで、商品の販売や製造の独占権を認められた。
- 問3 足利義満が行った外交政策と国内統治に関する記述として、歴史的な事実と一致するものはどれですか。（2022年 岐阜県公立入試 類似）
- 関所を撤廃して楽市・楽座を導入し、自由な商工業の発展を促した。
 - 元（モンゴル帝国）の侵攻を退けた後、博多に防塁を築いて防衛を強化した。
 - 明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、朝貢の形式をとって貿易を行った。
 - 分国法を制定して守護大名の権限を制限し、幕府の直轄領を全国に拡大した。
- 問4 室町時代に明との貿易を行う際、日本側が「勘合」と呼ばれる札を使用した目的を説明したものとして、最も適切なものを選択してください。（2024年 栃木県公立入試 類似）
- 国内の銅銭が不足したため、銅の流出を厳しく管理するため
 - 元（モンゴル）の再来に備え、明と軍事同盟を結ぶための証拠とするため
 - 正式な貿易船と、倭寇（わこう）と呼ばれる海賊船を区別するため
 - キリスト教の布教を目的とした宣教師の入国を制限するため
- 問5 室町時代、第3代将軍の足利義満が明（みん）との間で始めた正式な貿易において、当時活動していた海賊である倭寇（わこう）と、幕府が認めた正式な貿易船を明確に区別するために使用された、二枚一組の割符（札）を何と呼びますか。（2018年 愛媛県公立入試 類似）
- 御朱印
 - 勘合
 - 日宋貿易証
 - 朱印状
- 問6 室町時代の陸上輸送において、馬の背に荷物を載せて運んだ運送業者は、その組織力を背景にしばしば徳政一揆の中心となりました。この運送業者を何と呼びますか。（2026年 京都府公立入試 類似）
- 問
 - 惣村
 - 座
 - 馬借
- 問7 奈良市柳生にある石碑には、1428年の正長の土一揆に際して、徳政が行われた事実を後世に伝える文章が刻まれています。この石碑が象徴している、当時の民衆の要求や行動の目的として最も適切なものはどれですか。（2026年 福岡県公立入試 類似）
- 商業の利権を独占するため、有力な寺社や公家に税を納めること
 - 借金の支払いを免除するよう、幕府や高利貸しに強硬に迫ること
 - 領主の交代を求めて、特定の村落が他の地域と協力して武力行使すること
 - 信仰を共にする門徒たちが、守護大名の支配を排除して自治を行うこと
- 問8 15世紀、沖縄本島において尚巴志（しょうはし）が三山を統一して成立した琉球王国の政治・文化の中心地であり、当時の東アジアにおける海上交易の象徴となった場所はどこですか。（2022年 岡山県公立入試 類似）
- 江戸城
 - 太宰府
 - 安土城
 - 首里城
- 問9 室町時代後期の京都において、戦乱からの復興とともに、高度な技術を用いた絹織物生産が特に盛んになった地域はどこですか。（2023年 香川県公立入試 類似）
- 西陣
 - 堺
 - 近江
 - 博多
- 問10 14世紀の東アジアでは、中国で明が建国されて元が北方へ退き、朝鮮半島では高麗に代わって朝鮮国が建国されるなど、大きな社会の変化が起こりました。この時期、日本や中国、朝鮮半島の沿岸部で「倭寇」の活動が活発化した主な要因として、当時の各国に共通していた背景を説明したものを選びなさい。（2015年 大分県公立入試 類似）
- 各国が鎖国政策を採用したことで、正規の貿易ルートが完全に遮断されたため
 - 元が日本に侵攻した元寇の影響により、東アジアの制海権が完全に失われたため
 - 各国の国内の情勢が不安定で、沿岸部の取り締まりが十分ではなかったため
 - 各国で強力な中央集権体制が整い、対外進出が積極的に推奨されたため
- 問11 奈良時代から室町時代にかけての、日本と大陸との交流や文化の推移について述べた説明として、歴史的な時系列が正しいものはどれですか。（2020年 大分県公立入試 類似）
- 奈良時代に国風文化が成立し、平安時代に西アジアとの交流が絶えた後、平安末期に勘合貿易、室町時代に日宋貿易が行われた。
 - 平安時代に国風文化が広まった後に正倉院へ西アジアの品々が納められ、鎌倉時代の勘合貿易、室町時代の日宋貿易へと展開した。
 - 奈良時代に勘合貿易が行われ、平安時代に日宋貿易が盛んになった後、鎌倉時代に国風文化が栄え、室町時代に正倉院が建立された。
 - 奈良時代に西アジアの品々が正倉院に収められ、平安時代に国風文化が発達した後、平安末期の日宋貿易、室町時代の勘合貿易へと展開した。
- 問12 中世（鎌倉・室町時代）と近世（江戸時代）の日本の貨幣流通状況を比較したとき、中世の経済的特徴を示す背景として最も適切な記述を選択してください。（2025年 岡山県公立入試 類似）
- 定期市における貨幣の使用を禁じ、特定の有力な商人のみが外国貨幣を取り扱える仕組みを整えていた。
 - 金座や銀座を各地に設置することで、金・銀・銭からなる全国共通の貨幣制度を独自に確立していた。
 - 国内で統一された貨幣体系が未整備であり、外国との交流によって流入した貨幣が国内流通の主役であった。
 - 中国からの貨幣輸入が途絶えたため、国内の主要な経済活動はすべて米による物々交換に限定されていた。
- 問13 室町幕府の政治組織において、足利氏の一門から選ばれ、将軍に次ぐ最高の役職として将軍を補佐し、政務を統括した職を何といいいますか。（2024年 山梨県公立入試 類似）
- 六波羅探題
 - 評定衆
 - 執権
 - 管領

答え合わせ・解説

問1	答え 3 後醍醐天皇が自らの意向を直接伝えるために出した命令書	建武の新政において、後醍醐天皇はそれまでの先例や慣習を否定し、すべての物事を天皇の直接の意志である「綸旨」によって決定しようとしていました。しかし、土地の所有権などをめぐって内容の矛盾する綸旨が次々と出されたことが、武士たちの大きな混乱と反感を買う原因となりました。
問2	答え 1 町衆と呼ばれ、自治組織を結成して祇園祭などの伝統行事を支える文化の担い手ともなった。	京都の「町衆（まちしゅう）」は、法華一揆などを通じて団結を強め、自治的な組織を運営しました。彼らは単に経済活動を行うだけでなく、茶の湯、連歌、能楽、そして戦乱で中断していた祇園祭の再興など、中世から近世にかけての豊かな都市文化を支える重要な役割を果たしました。会合衆は堺、座は特権的な商工業者組合、地侍は武士化した農民を指します。
問3	答え 3 明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、朝貢の形式をとって貿易を行った。	義満は経済的な利益を重視し、明の皇帝に臣下としての礼をとることで「日本国王」として認められました。これにより、幕府が貿易の実権を独占し、莫大な利益を背景に強力な権力を行使することが可能になりました。
問4	答え 3 正式な貿易船と、倭寇（わこう）と呼ばれる海賊船を区別するため	当時の東シナ海では倭寇による海賊行為が横行しており、明はこれに強く抗議していました。足利義満は明との国交を樹立するにあたり、明から発行された「勘合」という帳簿の割り印を照合することで、正式な朝貢貿易船であることを証明しました。これにより、私的な貿易や海賊行為を排除する仕組みが作られました。
問5	答え 2 勘合	室町幕府の全盛期を築いた足利義満は、明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、正式な国交を結びました。当時、東シナ海などでは「倭寇」と呼ばれる海賊が略奪行為を行っており、明側はこれに強く抗議していました。そこで、正式な貿易船であることを証明するために、漢字の半分が書かれた「勘合（勘合符）」という割符を、明側が持っている控えと照らし合わせる方式が採用されました。この仕組みを用いた貿易であるため、勘合貿易と呼ばれます。
問6	答え 4 馬借	陸上交通の要所で活躍した「馬借」は、多くの馬と人員を組織して物資を運んでいました。彼らは物流のネットワークを通じて強い団結力を持っていたため、幕府に対して借金の帳消し（徳政）を求める一揆が起きた際には、その行動力を活かして中心的な役割を果たすことができました。座は商工業者の同業者組合、惣村は農民による自治組織を指します。
問7	答え 2 借金の支払いを免除するよう、幕府や高利貸しに強硬に迫ること	奈良県の「柳生徳政碑文」には、徳政によって借金がなくなった事実が刻まれており、当時の民衆が実行行使によって「徳政（借金の帳消し）」を勝ち取ったことを証明する貴重な資料です。土一揆は単なる暴動ではなく、借金で生活が立ち行かなくなった人々が生きるために起こした団結行動でした。
問8	答え 4 首里城	沖縄では1429年に琉球王国が成立し、その居城は中国や日本の影響を融合させた独自の建築様式を持つ政治の拠点となりました。この場所は、明や朝鮮、東南アジア諸国との活発な交流を支える舞台となりました。
問9	答え 1 西陣	応仁の乱の際、西軍の本陣が置かれた場所に職人たちが集まり、絹織物業が発展したことから「西陣」と呼ばれるようになりました。西陣の織物は京都の町衆の経済基盤を支える重要な産業となりました。選択肢にある堺や博多も自治都市として有名ですが、これらは港町としての性格が強い都市です。
問10	答え 3 各国の国内の情勢が不安定で、沿岸部の取り締まりが十分ではなかったため	14世紀の東アジア諸国は、いずれも政権の交代や内乱の最中にありました。日本では鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱へと続く混乱期にあり、中国では元に代わって明が建国され、朝鮮半島でも高麗から朝鮮国への王朝交代が起きていました。このように各国で国内の情勢が不安定であったため、沿岸部での組織的な海賊行為である倭寇を抑え込む公的な力が弱まり、活動の拡大を許すことにつながりました。
問11	答え 4 奈良時代に西アジアの品々が正倉院に収められ、平安時代に国風文化が発達した後、平安末期の日宋貿易、室町時代の勘合貿易へと展開した。	奈良時代にはシルクロードを通じて西アジアの品々が唐からもたらされ、正倉院に収められました。平安時代には遣唐使の廃止などをきっかけに、日本の風土や生活に合わせた国風文化が成立しました。その後、平安時代末期には平清盛が日宋貿易を推進し、室町時代には足利義満によって明との間で勘合貿易が始まりました。設問の選択肢のうち、この順序を正しく並べているのは一つだけです。
問12	答え 3 国内で統一された貨幣体系が未整備であり、外国との交流によって流入した貨幣が国内流通の主役であった。	江戸時代の幕府が「三貨」と呼ばれる独自の貨幣制度を確立したのに対し、中世の日本では自国で貨幣を作る体制が整っていませんでした。しかし、商業の発展に伴い交換の媒介となる貨幣が必要になったため、中国の王朝から輸入された宋銭や明銭が、民間の売買や徴税の現場で不可欠な存在となりました。このように、他国の経済力や貿易に依存して国内の通貨供給をまかなっていた点が中世経済の大きな特徴です。
問13	答え 4 管領	室町幕府では、將軍を補佐する最高職として管領が置かれました。鎌倉幕府における最高職である執権と混同しやすいため、時代背景とセットで覚えることが重要です。管領は、足利氏の一族である細川氏、斯波氏、畠山氏の3つの家系から交代で選ばれました。